

# この子らと

令和2年12月

## まことの保育



発表会

鹿児島竜谷学園和光幼稚園



園長 川口公男

## コロナウィルス禍のお正月

「正月」は1月の別称ですが、1日が元旦、3日までを3が日、7日までを松の内、さらに15日の小正月までさまざまなお正月行事が行われます。

1月を「睦月」と呼びます。一家揃って睦みあう様子を表したものでおせちを食べたり、かるた・たこあげ等ふるさとへ帰省した親せきと再会を喜んだりしてお正月を家族総出で楽しむのがこれまででした。

しかし、首都圏(東京付近)、近畿圏(大阪付近)のアンケート調査によると年末年始に帰省予定の人は、14%程度と来年は、お家で過ごす静かなお正月となりそうです。

でも、ものは、考えよう、旅行等外出がままならないのであれば、お正月を一家でのんびりと睦みあう機会、お正月行事を楽しむ機会とすればとったりしています。

「おせち料理」「お年玉」「初夢」「鏡開き」などのお正月行事の由来や意味などを家族で語り合う・・・etc



去年のあなたは、どんな人でしたか? 去年までのあなたは何をしていましたか。

きっと、他人は、あなたの過去を見て、あなたを判断しようとしています。

けれど、あなたまで、そういう見方であなたを見てはいけません。

あなたは、新しい。

あなたは、自身を過去から引き離せばきっと感じ方も変えられる。

うらやましく、憎らしいとばかり見えていたものがすばらしいと思えるかもしれない。

マイケル・J・ロオジエ

正月の 子供になって みたき哉 小林一茶  
年玉を 並べて置くや 枕元 正岡子規

“子どもの可能性は無制限です”



子どもは無限の可能性を持ってお父さん、お母さんから命のバトンを受け取り今を生きています。その可能性を引き出し、伸ばす仕事が幼稚園の役割です。発表会等での子どもの姿が自分たちの指導の姿であると本園職員は強く自覚し、職責感を持って取り組んでくれています。

保護者のみなさまには子どもの姿はどのように映られたでしょうか。わたしには、子どもたち一人一人が最善の舞台発表をし、一人一人が輝いて見えました。

### 子どもたちも「除夜の鐘」体験



鹿児島別院では、大晦日の夜、今年最後の法要「除夜会」が行われます。その後、ご参拝のみなさまに除夜の鐘をついていただきます。

一般的には鐘を鳴らす回数は、煩惱の数の「108回」ですが鹿児島別院では、煩惱の数は計り知れないとして除夜の鐘の回数は決まっていないとのこと。

子どもたちにも「鐘つき体験」をさせたいと別院の計らいで幼稚園に出張しての実施となりました。

子どもたちは、がんばれた一年に感謝をこめて鐘をつきました。来年も子どもたちは、ののさまに見守られながら、自らの可能性の花を咲かせてくれると思います。

来年が子どもたちにとって、皆様方にとって良い年となりますことを心から念じ申し上げます。

園長川口公男外職員一同